

室津 浄運寺の御詠歌 (欣求調)

(かりそめの御詠歌)

松 濤 基 作曲

♩ = 40~44



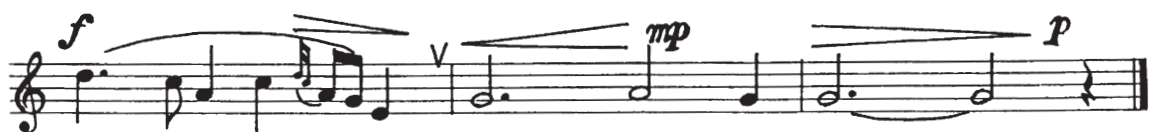
〔詠頭〕 ○× ○× ○× ○× ○× ○× ○× ○×
か り そめの 〔斉唱〕 いろのゆ かり —の



○× ○× ○× ○×× ○×× □ ○× ○×
ゆ かり — の こい—に ー—だ に



○ × × ○ × × ○ × × ○ × × ○ × ○ ×
あ—う には— み を— も お —



○ × × □ ○ × ○ × ○ × × ⊗
し — — ー—み や は す る —

播磨の国 室津 浄運寺

「仏法に逢ふて身^{しん}命^{みょう}を捨つといへることを」

かりそめの 色のゆかりの 恋にだに あふには身をも をしみやはする
(法然上人御作)

室津では遊女友君の求めに応じて、法然上人は「命をかける程道心はおこらなくても、ただそのままでよい。念仏しなさい。阿弥陀様は貴方のような罪深い人の為に誓願をたてられたのです。ただその本願を信じて頼み、あえて自分の身を卑下しないように」と優しく懇ろに教え導かれました。遊女友君は、その後信心堅固にして、臨終正念高声念仏し往生を遂げられました。四国帰りの上人は、遊女友君の往生の様を聞かれ、「しつらん しつらん」と感激されました。

題意 この人生で、仏の御^み教^{おし}えに遇う事ができました。このご縁の尊さに目覚め命がけで仏の御^み教^{おし}えを実行してください。

大意 一時の人生の恋愛でさえ、恋しい人と契るためには、命も決して惜しみません。まして私を、この世後の世、共に必ず護り導き救いたまう阿弥陀仏に対しては、心から信じ、お慕い申し上げ、恋いこがれる思いで称名念仏し、死生共にわずらいなき歓びを得、往生を願い求めましょう。

ポイント注意 ● 6拍子の曲です。

● 「かりそめの」の「の」の装飾音は四拍目の強声です。